川柳小だより

子供たち一人ひとりを大切にし、笑顔と夢あふれる川柳小

令和６年１月９日
草加市立川柳小学校
ＴＥＬ９３１－５０２５
児　童　数　５４８名

初心忘るべからず

校長 谷口 慎一

新しい年が始まりました。本年が皆様にとりまして、最良の年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

１月１日に発生した能登半島地震。被災された皆様にお見舞い申し上げます。被災された皆様の安全と一日も早い収束を心よりお祈り申し上げます。

皆様はこの冬休みをどのように過ごされたことでしょうか。私は今年も１月１日に初詣に行きました。川小っ子をはじめ川柳小にかかわるすべての皆様が、健康かつ安全で、素晴らしい１年となるよう祈願してきました。年の始め故に、新たな出発にふさわしい目標を定め、一日一日を有意義に過ごし、たくましく未来を切り拓く川小っ子に育ってほしいと願っています。

さて、皆様は「初心忘るべからず」という言葉を聞いたことがあると思います。誰でも耳にしたことがあるこの言葉は、室町時代に活躍し能楽の礎を築いた世阿弥が編み出したものです。今では、「初めの志を忘れてはならない」と言う意味で使われていますが、世阿弥が意図とするところは、もっと深いところにあるようです。世阿弥の芸術論を表した著書「花鏡」の中で「第一に『是非初心忘るべからず』、第二に『時々の初心忘るべからず』、第三に『老後の初心忘るべからず』」と3つの「初心」について語っています。

「是非初心忘るべからず」
若い時に失敗や苦労した結果身につけた芸は、常に忘れてはならない。それは、後々の成功の糧になる。

「時々の初心忘るべからず」
その年齢にふさわしい芸に挑むということはその段階の初心者であり、未熟さがある。その一つ一つを忘れてはいけない。

「老後の初心忘るべからず」
老齢になって初めて行う芸というものがあり、初心がある。年を取ったからもういいとか、完成したということはない。

つまり「初心」は常に続いているものであり、その時々で自分の未熟さを謙虚に振り返り、新しいことに勇気をもって挑戦していく心構えこそが「初心忘るべからず」の意味ではないでしょうか。

正月の「正」の漢字は、「一」と「止」からできています。この「一」は事始め、順番の始めをあらわしています。また「止」は、止どまる。始めを見直す。元を見直すということをあらわしています。つまり「正月」は初心に立ち返り、心新たなスタートをすることを求めています。この心新たなスタートに、どんな目標を立てどのように成長していくのでしょうか。期待して止みません。

今年は昨年以上に希望に満ちた一年になることを願います。目指す学校像「子どもたち一人ひとりを大切にし、笑顔と夢あふれる川柳小」の実現に向け、今年も職員一同精一杯頑張って参ります。皆様方の理解あるご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。